OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2014年度活動記録
Author(s)	
Citation	大阪大学歴史教育研究会 成果報告書シリーズ. 2015, 11, p. 45-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51631
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2014年度活動記録

大阪大学歴史教育研究会・2014年度例会

（※所属・職名は報告当時のもの）

第77回例会（2014年4月19日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館2階大会議室）

秋田茂（大阪大学大学院文学研究科教授）・荒川正晴（同教授）・栗原麻子（同准教授）・坂尻彰宏（大阪大学全学教育推進機構准教授）・桃木至朗（大阪大学大学院文学研究科教授）・伊藤一馬（同特任研究員）「教科書『市民のための世界史』の内容と特色」

大阪大学歴史教育研究会事務局「大阪大学歴史教育研究会2014年度の方針について」

第78回例会（2014年5月17日、会場：大阪大学豊中キャンパス文学研究科本館中庭会議室）

藤田弘晃（奈良県立奈良高校）・小田歩（大阪府立渋谷高校）・工藤駿（智学館中等教育学校）・佐藤靖子（同志社国際高校）特集「大阪大学歴史教育研究会から中高教育現場へ」

第79回例会（2014年6月21日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館2階大会議室）

佐藤正幸（山梨県立大学特任教授、山梨大学名誉教授）「日本型歴史文化における歴史教育の位置」

小浜正子（日本大学文理学部教授）「ジェンダー視点を踏まえた歴史教育――『歴史を読み替える：ジェンダーから見た世界史』を刊行して」

第80回例会（2014年7月19日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館2階大会議室）

史学会共催シンポジウム「高大連携による大学歴史系専門教育・教員養成教育の刷新」（2014年9月14日開催）プレ報告会

第81回例会（2014年10月18日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館2階大会議室）

南雲泰輔（山口大学人文学部講師）「異質なものとしての古代・中世地中海世界――『古代文化』特輯「西洋古代史の語り方：現代日本社会のために」のその後と補足」

岸本廣大（日本学術振興会特別研究員 PD）「未来へと変化する「今」における西洋古代史の意義」

コメント：栗原麻子

第82回例会（2014年11月15日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館2階大会議室）

中村　薫（大阪大学・同志社大学非常勤講師）「高等学校歴史教育研究会のアンケート調査の経緯と意味について」

久保田裕次（日本学術振興会特別研究員 PD）「武漢・長江流域・南進――近代日中関係

史の再検討のために」

第 83 回例会（2014 年 12 月 20 日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館 2 階大会議室）
大阪大学大学院文学研究科・大学院生によるグループ報告
大上幹広（日本史学 M1）・郜宇浩（東洋史学 M1）・下岸廉（東洋史学 M1）・檜垣翔（西洋史学 M1）・山崎達哉（共生文明論 M2）「16～17 世紀の東アジア世界と軍事商業政権――織豊政権を中心に」
釜谷周子（日本史学 M1）・小林基（人文地理学 M1）・中井勇人（東洋史学 M1）・濱田恭幸（日本史学 M1）・柳侑子（国際公共政策研究科 M1）「第一次世界大戦と日本の植民地――帝国日本　総力戦体制への道のり」
油井大三郎（東京女子大学現代文化学部教授）「高等学校の歴史教育改革――今後の課題」

第 84 回例会（2015 年 1 月 17 日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館 2 階大会議室）
猪原達生（大阪大学大学院文学研究科博士後期課程学生、日本学術振興会特別研究員）「宦官研究の現在・過去・未来――中国の事例を中心に」
中村　翼（大阪大学大学院文学研究科助教）「東アジア海域交流史と日本史のあいだ――日本史上の「中世」を中心に」

第 85 回例会（2015 年 3 月 14 日、会場：大阪大学豊中キャンパス文法経本館 2 階大会議室）
『市民のための世界史』合評会 Part I
第 1 部　書評
(1) 佐藤正幸「英文書評を書くことで見えてきた日本型世界史教育の特徴」
(2) 中村征樹（大阪大学全学教育推進機構准教授）「科学技術と社会の視点から考える世界史教育」
(3) 川島啓一（同志社中学校・高等学校教諭）「『市民のための世界史』を高校世界史の授業に導入して――生徒の反応とこれからの課題」
第 2 部　討論
執筆者からの応答・大学での授業実践報告
総合討論

教員組織・学会・自治体と連携した活動

全国歴史教育研究協議会第 55 回研究大会（大阪大会）（2014 年 7 月 30 日～8 月 1 日、会場：大阪国際交流センター）
＊本共同研究メンバーの秋田茂が 7 月 31 日に「1930 年代のアジア国際秩序――大阪から考える世界史」と題する記念講演をおこなった。

第45回北海道高等学校世界史研究大会（2014年8月8日、会場：札幌市教育文化会館）
＊本共同研究メンバーの秋田茂が「アジアに利用されたイギリス帝国――グローバル＝ヒストリーの視点から」と題する講演をおこなった。

史学会共催シンポジウム「高大連携による大学歴史系専門教育・教員養成教育の刷新」（2014年9月14日、会場：大阪大学中之島センター）

史学会125周年事業リレーシンポジウム2014の一環として、大阪大学歴史教育研究会と公益財団法人史学会との共催事業として実施した。シンポジウムの要旨とプログラムは以下の通りである。

【要旨】

「高大連携」「歴史教育」などのコンセプトは歴史学界でも今や珍しくないが、実際の取り組みの大半は、担当者の専門に合わせたランダムな内容での、高校教育界への働きかけにとどまっている。本シンポジウムでは、そのレベルを超えて中等・高等教育や生涯教育を含めた歴史教育の改善を系統的に担うことができる研究者・教員の養成には、なにが必要かを主題とした。

ベースとして、もとになるべき専門研究のための指導から、それを土台にした教養教育・教員養成などに至る系統的な刷新を進めてきた大阪大学史学系の事例、これと連携した地域教員集団の組織的取り組み、さらに新しい領域としてジェンダー史教育における高大連携の成果などを紹介し、研究者養成の場、地方大学・私立大学と高校などそれぞれの立場からのコメントを受けて討議をおこなった。

【プログラム】

趣旨説明　桃木至朗（大阪大学）

報告

(A) 桃木至朗・堤一昭・秋田茂・飯塚一幸（大阪大学）「阪大史学系の新しい教育」

(B) 中村武司（弘前大学）・向正樹（同志社大学）・後藤敦史（大阪観光大学）・中村翼（大阪大学）「歴史学界の「マルサスの罠」からの脱出をめざして――大阪大学歴史教育研究会の活動と若手のネットワーク」

(C) 庄司春子（同志社高校）・後藤誠司（京都市立日吉ヶ丘高校）・毛戸祐司（京都府立田辺高校）「京都高社研の高大連携活動から」

(D) 小浜正子（日本大学）「ジェンダー史教育の取り組み――歴史教育のジェンダー主流化へむけて」

コメント

(1) 岩井淳（静岡大学）「地方国立大学の視点から――静岡歴史教育研究会の挑戦」

(2) 皆川雅樹（専修大学附属高校）「大学付属高等学校における汎用的な歴史教育の実践」

司会　小田中直樹（東北大学）

「日本と世界が出会うまち・堺　2014」プロジェクト

大阪大学歴史教育研究会と堺市博物館の共催事業として、堺の国際交流の歴史にスポットをあてた「日本と世界が出会うまち・堺　2014」プロジェクトを実施し、2014年9月15日に研究発表・講演会を開催した（会場：サンスクエア堺ホール）。

＊本共同研究代表の桃木至朗が「「市民のための世界史」を堺から発信する」と題する講演をおこなった。

＊本共同研究メンバーの後藤敦史が中学生・高校生による研究発表の審査を担当した。

2014 年度立命館附属校教科研究会社会科公開授業「大学附属校における教育と歴史研究」（2014年11月21日、会場：立命館中学校・高等学校）

＊本共同研究代表の桃木至朗が「新しい歴史教育と＜市民のための世界史＞」と題する記念講演をおこなった。

科研「市民的教養のための歴史学――国際比較研究――」公開シンポジウム「歴史的教養とは何か――大学における歴史教育の新たな展開をめざして――」（2015年2月21日、会場：東京大学駒場キャンパス）

＊本共同研究代表の桃木至朗が「現代日本における大学教養教育とそこでの世界史の位置」と題する基調講演をおこなった。

科研費基盤研究（B）「歴史教育におけるジェンダー視点の導入に関する比較研究と教材の収集及び体系化」研究会『歴史を読み替える――ジェンダーから見た日本史』合評会（2015年3月1日・2日、会場：大阪大学豊中キャンパス）

＊本共同研究代表の桃木至朗がコメンテーターおよび話題提供者として参加した。

＊本共同研究メンバーの成田龍一と小浜正子がコメンテーターとして参加した。

立教大学文学部史学科主催公開シンポジウム「高校世界史教科書記述・再考　研究者の視点から」（2015年3月4日、会場：立教大学池袋キャンパス）

＊本共同研究代表の桃木至朗が「新しい世界史叙述と歴史学入門を目指して――阪大史学系の取り組みから」と題する基調講演をおこなった。